

科目区分	基礎科目	科目名	生活とアート		科目コード	17L100	担当者	昆 正子			
対象学生	ビジネス・医療秘書コース1年生	学期区分	前期	単位数	2	卒業要件		選択必修			
						免許・資格要件					
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
美術における表現の喜びや感動を学ぶ						1. 「 尽心 」 誠実な人柄と人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考・創造断力	⑤ 実行体力性・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	人間にとっての美術の意義を説明できる										
2.	美術に関する基礎的な知識を身につけ、美術作品を読み解く能力を養う										
3.	自由な発想と多様な表現方法により、表現活動を行うことができる										
4.						○	○	○	○	○	
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						臨時試験（35%） 提出物（45%） 受講態度（20%）					
表現と鑑賞の相互関係を基にし、時に実技を絡めながらの講義形式で行う。 スライド・映像視聴のほか、授業内でプリントを配布する。 美術の基礎知識について中間テストを行う。 実技については個人制作のほか、グループに分かれての活動も行う。											
準備学修						課題等への対応					
美術に関心を持ち、楽しみながら学ぶ習慣を日頃から身につけておくこと。 授業の中で適宜、具体的な内容について指示する。 西洋・日本美術の基礎知識を身につけるため、予習・復習には年間15時間を確保してほしい。 また、制作に必要な時間には個人差があり、作品完成のために時間外での制作を必要とする場合がある。						を返却し、全員で回答確認を行う。 レポートは内容確認後、後日授業内で学生に返却する。 作品制作後は極力鑑賞の時間を設け、後日授業内で学生に返却する。					
授業計画											
第1回	オリエンテーション（授業の説明）										
第2回	美術の鑑賞①ルネサンス期の芸術										
第3回	美術の鑑賞②ロマン主義の画家たち										
第4回	美術の鑑賞③写実主義の画家たち										
第5回	美術の鑑賞④印象派の画家たち										
第6回	作家・作品研究										
第7回	美術の基礎知識を確認する（これまでの振り返り）										
第8回	美術教育とは										
第9回	作品にみる色と形の表現一色・線・形										
第10回	作品の中の素材と技法一しかけ・視覚効果										
第11回	見る楽しさーポップアップカード1										
第12回	見る楽しさーポップアップカード2										
第13回	コラージュによる不思議な世界1										
第14回	コラージュによる不思議な世界2										
第15回	暮らしの中のアートー意義と役割										
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
教科書は使用しない 参考書については適宜授業内で紹介する						問題意識をもって受講してほしい。材料用具は個人負担であり、準備物は不可欠である。 県内の美術館や博物館で見学会を実施する場合は、授業を土曜日または日曜日に振り替えて実施する（現地集合・現地解散、要展覧会観覧料）					